

Essay

Sapiarc.com

2019年11月14日(2019-3)

行ってみたいところーベルリン

私が行ってみたいところはかなりあるが、現実には、今の体力では国内旅行すらできない。しかし、以前から、海外の主な都市ではベルリンにもう一度行ってみたいと思っていた。ロンドンやパリには何度も行ったが、ベルリンには2003年の6月初旬に3日間行っただけだ。2003年は、私が東大を60歳で定年退職したあと5年間在職した埼玉大学理学部を2002年3月に再び定年退職して、2004年4月に埼玉大学の学長に就任するまでの、いわば「空白」の期間だった。

2003年のベルリン滞在中に、私はかねてから知り合っていた、ローベルト・コッホ研究所 (Robert-Koch-Institut)、ベルリン工科大学 (Technische Universität Berlin) の研究者やカナダの駐ドイツ大使館で大使の補佐役を務めていた人 (ルーマニアで生まれ育ったドイツ人で、カナダ国立研究所で研究室を主宰したあと「外交官」に転身していた) を訪問したほかは、市の中心部分ミッテ (Mitte) と、ベルリン工科大学から南に1キロメートルほどのところにある繁華街クーダム (Kurdamm, 正式には Kurfürstendamm) だけを見物した。

ミッテはかなり広い地域を指していて、東西に約3キロメートル、南北に2キロメートルほどあるので、私が見て回ったのは、

その一部に過ぎない。ミッテの西半分を東西に貫く主要な通りの名称は「ウンター・デン・リンデン (Unter den Linden)」だ。これは「ヨウボダイジュの下」を意味するので、この通りの両側にはヨウボダイジュの樹々が植えられている。この通りの西の端にベルリンを象徴する「ブランデンブルク門 (Brandenburger Tor)」がある。この通りの名称は、この門から西では「6月17日通り (Straße des 17. Juni)」に変わる。

1945年5月にドイツが連合国に降伏した後、ドイツはアメリカ、イギリス、フランスが統治する西ドイツとソ連が統治する東ドイツに分割された。ベルリンはアメリカ、イギリス、フランスが統治する西ベルリンとソ連が統治する東ベルリンに分割された。ベルリンはソ連統治下の東ドイツの中にあっただけで、西ベルリンは陸の孤島になり、それに伴って、いろいろなことが起こった。1961年に、東ドイツは東西ベルリンを分断する壁 (いわゆる「ベルリンの壁」) を建設して、人びとが東西に行き来できないようにした。この壁の全長は約160キロメートルにも及んだ。なぜこんなに長かったのかは、壁の形が非常に入り組んでいたからだ。一体誰がこういう複雑な形でベルリンを東西に分けたのか、私は知りたいと思っている。

ベルリンの壁は、ちょうど今から 30 年前の 1989 年 11 月 9 日に、東ドイツの人々の強い思いに引きずられて、崩壊が始まった。ブランデンブルク門のすぐ西側にあった壁の上に多くの人々が登って喜ぶ姿が、テレビのニュースで伝えられた。ハンマーで壁をたたき壊していた人もいた。ベルリンの壁の崩壊については、Wikipedia に驚くほど詳しい記述がある。現在、壁があったところには「壁の道」が作られているが、壁のほんの一部分は記念碑として保存されている。1990 年には、東西ドイツが統合された。それ以来、ドイツは東ドイツだった地域に多大な投資をしてきたが、未だに東西には経済的格差は残っているようだ。

2003 年にベルリンに行ったときに、私はベルリン大学を見に行った。この大学の本部は、ウンター・デン・リンデンに面しており、この通りの北側にある。通りに面した建物の壁に “In diesem Hause lehrte Max Planck der Entdecker des elementaren Wirkungsquantums h von 1889–1926.” (この建物のなかで、基本作用量子 h の発見者マックス・プランク (Max Planck) が 1889 年から 1926 年まで講義をした。) と書かれた飾り板が埋め込まれていた。これを見て、私は感銘を受けて、それ以上、大学の内部には入らなかったが、今では、中に入ってみるべきだったと思っている。惜しいことをした。この大学は、1809 年にベルリン大学 (Universität zu Berlin) として創立されたが、1828 年にベルリン・フリードリッヒ-ヴィルヘルム大学 (Friedrich-Wilhelms-Universität zu Berlin) に改称された。現在の名称はベルリン・フンボルト大学 (Humboldt-Universität zu Berlin) だ。

マックス・プランクは 1918 年にノーベル物理学賞を受賞した世界的な物理学者だ。ヒトラーが政権を取ったあと、ユダヤ系ドイツ人を大学から追放することにしたとき、プランクはヒトラーに面会して、その措置がドイツの科学研究をさまたげるとして抗議したが、ヒトラーは耳を貸そうとはしなかった。現在、ドイツ各地にマックス・プランク研究所 (Max-Planck-Institut) という名称の研究所がいろいろな分野にあって、世界最高の研究を行っている。

ベルリンには、第 2 次大戦後に西ベルリンに創設されたベルリン自由大学 (Freie Universität Berlin) があり、このほかに工科大学と医科大学 (Universitätsmedizin Berlin) がある。これら 4 大学はひとつの大学システムを構成しているようだ。

ローベルト・コッホ研究所はミッテから北西にかなり行ったところにある。日本でいう独立行政法人の医学研究機構で、私の専門である分子分光学の手法を生物学の研究に応用している人も数人いた。北里大学や慶応大学医学部の創立者として知られる北里柴三郎はコッホの研究室に留学して研究業績をあげたが、当時コッホはベルリン大学教授を務めていた。19 世紀の終わりごろには、ドイツの医学や化学は世界のトップだった。

ベルリン工科大学は、上記の 6 月 17 日通りをブランデンブルク門から西に約 4 キロメートル行ったところの南側にある。この大学は、1879 年に王立ベルリン工業高等専門学校 (Königlich Technische Hochschule zu Berlin) として創立され、1946 年に現在の名称になった。ヨーロッパ諸国では、工科 (工学部) を大学のなかに置かず、工業高等専門学校にするという伝統があったが、第二次大戦後、ドイツやオーストリア

では、それらは工科大学になった。しかし、今でも、スイスには連邦工業高等専門学校 (Eidgenössische Technische Hochschule, ETH の略称で知られる)、フランスにはエコル・ポリテクニク (école polytechnique)、イタリアにはポリテクニコ (politecnico) がある。これらは実質的に大学なので、工業高等専門学校と訳すことは不必要で、今では工科大学と訳していることが多い。

クーダムは、西ベルリンで最も繁華な通りだとされていたが、今日では、かつて東ベルリンだったミッテの東半分のあちこちに繁華街ができていたので、今ではベルリンを代表する通りではなくなっているようだ。2003年に私がベルリンに行ったときにはなかったベルリン中央駅が、今では現代的な形で存在している。このようなことは、2019年3月に新装改訂版が出版された「ベルリンガイドブック」(ダイヤモンド社)と2003年出版の「トラベルストーリー ベルリン ドレスデン」(昭文社)を見比べるとよくわかる。実際に行くことができないので、本のなかの地図や写真を見て、楽しんだ。(おわり)